

◎支援事例のご紹介◎

その① 自宅前での転倒により頭部を強打、緊急搬送された事例

・94歳 男性
いつもながら近くの病院に通院してのタクシーでの帰り道、自宅前の石段から転倒してしまい頭部を強打してしまいました。自宅前の道路が狭いことから、タクシーがUターンしてきたため、転倒しているご本人を発見。運転手さんがご本人から当会の緊急連絡先カードを見せてもらったため、当会まで連絡が入ったもの。早速当会生活支援員が駆け付け直ちに救急車を要請、当会支援員が同乗し病院に搬入した。病院への搬入後MRI検査の結果、頭部内出血の疑いがあることから、3週間ほどの入院となった。退院後は、自宅での生活を希望していたため介護サービスを受けることで一人にならないケアプランの策定を要請した。具体的には、週3回のデイサービス利用、週3回の訪問ヘルパー利用とした。一方、当会の支援としては、通院同行、買物支援、金銭管理支援などを行い、トータルな支援の効果で元の生活を取り戻しつつある。ご本人からは、もりおか架け橋の会に入って大変助かった。もし入っていなかったら自分はどうなっていたのかわからない、只々感謝しかないと口癖のようにお話をいただいている。



その② 施設で骨折、救急搬送された事例

・90歳 女性
施設内でなんらかの拍子で転倒してしまい、立ち上がれなくなったことから施設から当会に連絡があったもの。支援員が駆け付けたところ、痛くて起き上がれないとのことから救急車を要請し、当会支援員が救急車に同乗し救急病院に搬送した。レントゲン検査が行われた結果、大腿骨骨折との診断となり1ヵ月の入院となった。退院後はデイサービスを利用する中でリハビリを重点的に行い、現在歩行器での移動ができるまで回復している。



その③ マンションでの一人住まいから施設入居された事例

・74歳 女性
長らくマンションでの生活をしてきたが、体調が優れないため入退院を繰り返すなど生活の乱れがひどくなっていた。そこで、退院を機に施設への入居を決定し、数カ所に通院している病院を減らすことや多用していた薬の管理、生活習慣の改善などを担当医の指導の下、目標に取り組むことにした。介護サービスでは訪問看護、訪問介護、デイサービス、リハビリを行う一方、当会の支援としては、通院同行、買物支援、マンションの管理支援、必要な生活用品の持ち出し、金銭管理などの支援を行っている。施設での規則的な生活の維持、減薬、通院先の一本化、精神的な不安定さに対する寄り添った支援等を行った結果、心身共に徐々に回復に向かい、笑顔が散見されるまで回復してきた。

無料出張セミナーのご案内

これまで、一堂に会してのセミナーを開催してまいりましたが、今後は数人程度の少人数によるセミナーを開催することといたしました。

少人数での開催をするメリットとしては、参加される方の見える関係での率直な質疑応答や情報の共有化ははかられることが挙げられます。

詳しくは別紙パンフレットをご参照ください。



一般社団法人 もりおか架け橋の会

寄り添い支援ネットワーク

寄り添い支援レター

YORISOI SUPPORT LETTER Vol.14

2024年9月

【発行】

一般社団法人 もりおか架け橋の会

〒020-0851

岩手県盛岡市向中野2丁目20-2

TEL 019-681-3663 FAX 019-681-3664

ホームページ: <https://morioka-kakehashi.com>



「高齢者等終身サポート事業」ガイドラインについて

当会が行っているような事業の名称が厚労省から提示されました。事業の正式名称は「高齢者等終身サポート事業」と言います。文字通りの名称かと思えます。

身寄りのない方や身寄りがあっても疎遠な方への身元保証や生活支援、葬送・死後事務支援についての事業ガイドラインが徐々に明確化されつつある中で、当法人のような事業が社会的に認知されるようになってきたことは嬉しい限りです。当会では、このガイドラインに沿って事業活動を行っておりますので、ご安心いただきたいと思います。ガイドラインの詳細につきましては、下記のQRコードからご覧いただけます。

近い将来、日本人の3割が65歳以上の高齢者となりますが、急速な高齢化に向けて一層の支援体制を強化していかなければと思う今日この頃です。

▶高齢者等終身サポート事業者ガイドライン



当会オリジナルの終活ノートを作成を支援しています

終活ノートは、ご自身が結末を迎えるのにどうしたらいいか？という要望やご意向を一冊のファイルに書き込み、万一の時に備えて置き、安心していただきたいという主旨で作成をおすすめしております。



- 【目次】
1. 私のこと
 2. 家系図
 3. 医療介護
 4. 私の財産
 5. 保険
 6. 相続
 7. ご葬儀
 8. お墓
 9. 遺品整理
 10. 今までの私
 11. その他



●終活の目的は

- ①単なる「死後の準備」ではない
- ②老後の生活を豊かにし、安心感が生まれる
- ③ご遺族の負担を減らすことができる

●終活で考えるべきことは、次の5項目

- ①老後の生活の事
- ②身の回りの物の整理
- ③医療・介護についての希望
- ④葬儀のこと
- ⑤相続のこと

●終活ノートへの記載

- ①書けるところから少しずつ書いていく
- ②書き進めていくとモヤモヤが消えていく
- ③決められない場合は後回しでも構わないが、意思能力があるうちに決める必要がある

後世にどう残す？



どう残す？

【問い合わせ先】もりおか架け橋の会 終活担当者まで

TEL. 019-681-3663

終活には「気力」「体力」「判断力」が必要
3つの力があるうちに



高齢者が感じている「住まい」に対する不満について

高齢者では8割は持ち家ですが、「自宅が暮らすのもしんどい」と、住み替えを検討する場合も。そこで有力な選択肢となるのが老人ホームです。しかし「ここなら最期まで……」と決めたホームでも「ちょっと違った」ということはあるようです。



内閣府『令和6年版 高齢社会白書』によると、65歳以上の住まいとして最多は「持ち家(戸建て)」で76.2%。「持ち家(分譲マンション等の集合住宅)」8.3%を加えると、高齢者の持ち家率は8割を超えます。ただ持ち家に対し、何ら問題がないかといえばそうではありません。持ち家の人に「現在の住宅の問題点」を聞いたところ、「何の問題点を感じていない」は31.0%。逆をいえば、7割の人は何かしら問題を抱えているといえるでしょう。ではその問題点として最多は「住まいが古くなり、傷んでいる」で29.8%。問題点をざっと見る限り、このまま住み続けるのはどうなのか……と思ってしまう結果です。

【持ち家の高齢者に聞いて「現在の住宅の問題点」】

- 1位「住まいが古くなり傷んでいる」…29.8%
- 2位「地震・風水害・火災などの防災面や防犯面で不十分である」…25.8%
- 3位「断熱性や省エネ性が不十分」
- 4位「家賃・税金・住宅維持費など住宅に関する経済的負担が重い」…14.1%
- 5位「段差や階段等があり使いにくい」…13.1%
- 6位「住宅が広すぎる」…12.1%
- 7位「部屋数が多すぎる」…10.9%
- 8位「台所・便所・浴室などの設備が使いにくい」7.7%
- 9位「日当たりや風通しが悪い」5.2%
- 10位「住宅が狭い」5.2%



中島美智子さん(仮名・75歳)も住み替えて、有料老人ホームに転居したというひとり。3年前に夫を亡くし、戸建てで1人暮らし。造りの古い自宅は階段が急で、転げ落ちないか、心配だったといいます。興味本位で老人ホームの見学に行ったところ、それは雑誌で見た以上。「もはやホテルね……」そんな豪華なホームもあったとか。ただそのようなホームは費用も高額だし、身の丈にあっていない。

— 年金が月15万円程度の私でも余裕のホームがいいわ

こうして見つけたホームは、新しくできたばかりで、設備はピカピカ。何よりも試食させてもらった食事が中島さんの口にピッタリあったそう。「ここなら死ぬまでいられそう……決めた！」と入居を決断。自宅を売却し、入居費用に充てたといいます。

しかし中島さんの我慢は初日から。

— 初めて集合住宅(的なところ)に住むのですが、こういうものでしょうか？

隣室や廊下から音が聞こえてきて、居室にいても落ち着くことができません。活気があるといえばそうではありますが、生まれて一度も戸建て以外には住んだことのない中島さんには別世界のものでした。また段々とスタッフの対応にも不満が募っていったといいます。要介護者や認知症患者も入居する施設。スタッフは、どこか子どもと接するような話し口調で、それは中島さんに対しても。当初は丁寧だと感じた対応も、段々と嫌気がさしてきて、中島さん、自室にこもるようになったといいます。

— こんなはずではなかったのに……

きちんと見学を行い、試食もさせてもらった。スタッフとも話をして決めたホームでしたが、実際のホームでの暮らしを想像することはできていませんでした。

1年ほど、この環境で暮らしてみたものの、やはり耐えることはできず退居、別のホームに転居したといいます。「家を売ってなければ、一度、戻ることができて、こんなに耐えることはなかったんですけど……」と中島さん。前回の失敗を反省し選んだこともあり、いまのところ不満はないといいます。

通常の住まいにおいて、当初は理想通りでも段々とズレが生じ、最終的に引越をしたという経験は多くの人にあるでしょう。それは老人ホームでも同じで、結局は住んでみないと分からないもの。退居することも珍しくないもので、そのことを見越して自宅の売却時期は考えたほうがよさそうです。

■【参考資料】内閣府『令和6年版 高齢社会白書』

■THE GOLD ONLINE(ネット記事)からの抜粋
もう、我慢できません…年金15万円・75歳女性を犠牲させた「老人ホーム」でのまさかの苦痛「こんなはずでは」(msn.com)

当会では、以上のようなことが生じないように、ご一緒に施設見学を行う一方、自宅の売却についても一緒に検討しながら慎重に進めていくよう支援しております。